



下江 一将 議員
(清流会・かさいを育む会)

まちの活力を生む若者を市はどう捉えるか



問 若者が日常的に交流できる場が必要である。既存の施策で若者のニーズに応えられているか。

答 ニーズに応えられているかは認識していません。

問 令和7年9月の定例会で若者とは対面での意見交換を重視すると答弁された。若者と意見交換の機会を持たれたのか。

答 意見交換の場としては、現在まで実施していません。

問 若者が主体的にまちづくりに関われる仕組みは考えら

れているか。

答 そのような機会を設けるのは難しいと考えています。参画できるような場に出てきていただけたらと考えています。

問 若者が主体的にまちづくりに関われることが、まちの活力を生む原動力になる。その環境を整えるには、日常的に集い楽しめる場が必要だが、娯楽施設や集える場所が市内に欠如している現状をどのように認識されているのか。

答 若い方々が集まっていたけるような場を行政が提供することはできません。出店を検討される事業者から市に相談があった場合は、積極的に支援していきたいと考えています。

問 線引き廃止によって空き家を活用しやすくなったこと

は、本市の魅力になる。移住定住促進のため、移住定住サイトや空き家バンクなどで積極的にPRしていく必要がある。

答 移住定住関係のホームページでも、空き家の活用がしやすくなったという表現はしていませんので、御指摘のように掲載していきます。

問 担い手不足によって地域インフラの維持を地域住民の共同作業だけに依存することは、今後、ますます難しくなる。新たな維持管理の仕組みについて研究していく必要がある。

答 多面的機能支払交付金を活用して、草刈り機械の導入や維持管理を業務委託することは可能ですが、補助金額が十分だとは言えず、不足分が多くなると思います。



土本 昌幸 議員
(公明党)

建設事業の進め方について



問 令和7年3月議会に提出の住宅団地整備に向けた整備事業について、この事業の進展がない。長年、地元も含めて大きな期待があった事業である。状況についてお聞きする。

答 北条町東南における北条鉄道により分断され、活用が課題であった土地において、踏切を設置することにより、民間の住宅開発を支援するための予算計上でした。その経緯ですが、令和4年度に開発事業者から住宅開発の

相談を受け、地元から賛同を得ました。令和5年度から踏切の設置について近畿運輸局と協議を重ね、目途が立ったため、令和6年11月に地権者向けの説明会を行い、その場で地権者の承諾を得たことにより、事業化について、令和7年3月議会で予算計上しました。その後の開発は、民間事業者が中心となりますので、その民間事業者が各戸別に用地交渉に入りました。ほとんどの地権者に同意をいただきましたが、個別の事情があって同意取得が難しい土地が判明しました。その土地が踏切設置において非常に重要な場所であったため、事業化が難しく、令和7年度中の予算執行が困難となり、減額補正となりました。

問 今後の対応についてお聞きする。

答 現在は、別の進入ルートを開地元や開発事業者と調整しており、もう少し慎重に土地の状況等の調査を事前に行い、地元同意等の目途が立ちましたら、再度、予算としてお願いしたいと考えています。

問 今回の事例は市として、今後、より丁寧な説明の仕方、取り組み方が必要になると判断している。他の事業も含めて大事な視点となるので、改めて答弁を求める。

答 事前の地権者説明会の中で丁寧に説明を行い、地権者とコミュニケーションを綿密に取ることによって、さらなる詳細な状況の把握に努めていきます。